

静岡赤十字病院で静大生協力

小児科外来に温かみ

静岡赤十字病院（静岡市葵区）の小児科外来がこのほど、静岡大の学生の協力で生まれ変わった。子どもの緊張や不安を和らげ、親子のコミュニケーションが生まれる空間が完成した。

病院待合室のマイナスイメージの払拭（ふっしょく）を、つなかりを持たせた。目指した、2016年から3カ年にわたるプロジェクト。作業は診療終了後の夕方や土、日曜日に行った。美術・同大教育学部で美術を学ぶデザイン専攻4年の小園理紗

親子交流へ壁画やカード

生延べ約30人が、病院スタッフとの意見交換を繰り返しながら取り組んだ。コンセプトは「安心・想像・つながり・笑顔」。1年目は待合室の壁一面に、さまざまな動物を温かみのある色彩で描いた。子どもの横でスマートフォンを操作している親が多いという問題を受け、2年目は親子で壁画を見ながら楽しめるアートカードなどを作成。最終年はトイレ

はじける世代を深く

DeePop

ディーポップ



学生のアイデアで作られたアートカードや塗り絵など。壁画を見ながら楽しむことができる。

|| 静岡市葵区の静岡赤十字病院

さん(20)は「自分たちで考えたアイデアが話し合いの中で洗練されて根拠を持ったデザインになり、喜んでもらえる形になっていくのが楽しかった」と充実感をにじませた。壁画を基にした塗り絵や間違い探しもあり、発達指導などにも活用できる可能性があるという。吉角由紀看護係長は「生かしながら、親子に関わっていきたい」と話した。（社会部・鈴木明芽）